

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	武雄市立北方中学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した重点目標については、おおむね達成することができた。今年度も新型コロナウイルス感染症の流行によって、学校行事等の延期や開催方法の変更などを行ったが、保護者や地域の方々のご理解とご協力により、生徒の学習活動を円滑に実施することができた。</li> <li>・「学力向上」については、研究主任、学力向上対策コーディネーターを中心に研究や研修をすすめ、教師の授業力向上により一層取り組むとともに、北方中授業スタイルを更に推進し、「協働的な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させ、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業に取り組む。</li> <li>・本校の課題である「家庭学習の習慣化」については、「授業と家庭学習をつなぐ前進ノートA」の活用により、おおむね達成することができた。しかし、学習時間の確保という点に課題があり、次年度も引き続き重点課題に設定するとともに、P T Aと連携した810大作戦(平日夜8時～10時は勉強)の定着や、I C Tを活用した家庭学習、テスト前勉強用自主学習ノート(前進ノートB)の質的向上にも引き続き取り組む。・次年度も、「防災教育」「I C Tを利活用した教育の推進」「特別支援教育及び教育相談の充実」をより一層進めるとともに、働きやすい職場環境づくりを進めていきたい。</li> </ul>
---------------	---

2 学校教育目標	「郷里を愛し、志を高める生徒の育成」
----------	--------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 確かな学力の定着と向上    ② 豊かでたくましい心身の育成    ③ 地域を愛し、貢献する生徒の育成</p> <p>④ 志を高める生徒の育成    ⑤ 特別支援教育・教育相談の充実    ⑥ 働きやすい職場環境づくり</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目	中間評価	5 最終評価
-----------	------	--------

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上 重点①	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「先生たちは、めあてを提示し生徒に見通しをもたせながら丁寧に授業をしているので、次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した生徒の割合を95%以上。	・北方中授業スタイルの徹底。 ・単元等とおした「めあて」のたて方や振り返り活動の工夫改善。 ・朝の10分間読書の時間を設定して、集中力と読解力の伸長を目指す。	B	・先生たちは、めあてを提示し生徒に見通しを…次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した生徒の割合は95%であった。今後、めあての立て方や振り返り活動について工夫改善していく。 ・朝の10分間読書は、学年や学級によって取り組み方に温度差があり改めて共通理解を図る。	A	・先生たちは、めあてを提示し生徒に見通しを…次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した生徒の割合は97.9%であった。 ・朝の10分間読書は、学年や学級によって計画的に進められた。	A	・心を静めるやり方として10分間の読書は大事なことでありと思う。
	○授業改善と家庭学習の習慣化及び質の向上	○「授業と家庭学習をつなぐ前進ノートAに一週間(5日間)のうち何日取り組んでいますか?」で「5日取り組んでいる」と回答した生徒の割合を80%以上。	・授業改善及び授業と家庭学習をつなぐ「前進ノートA」やタブレットを活用した復習問題に確実に取り組ませ、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。	B	・授業と家庭学習をつなぐ前進ノートAに一週間の内5日間取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒の割合は85.6%であった。 ・前進ノートAやタブレットを活用した復習に確実に取り組ませる方策を立て、共通実践を行っていた。	B	・授業と家庭学習をつなぐ前進ノートAに一週間の内5日間取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒の割合は63.4%であった。 ・家庭学習部会を中心に、「前進ノートA」を活用した復習に取り組ませる方策を立て共通実践を行えた。	B	・取り組みの質のみでなく、内容等の質の向上を大切にしたい。 ・「810大作戦」は、生徒にとって家庭学習のいいきっかけになっていると思う。
●心の教育 重点②	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「誰かの役に立っている」と肯定的に答える生徒の割合を90%以上 ○「道徳をはじめ様々な学校活動の中で、生徒の自己肯定感を高める指導に取り組んでいる」と肯定的に答える教員の割合を90%以上	・特別の教科「道徳」の授業の充実 ・学校行事や生徒が活躍できる場の確保 ・校則の見直しと生徒指導の改善・充実	B	・全職員で「様々な学校活動の中で、生徒の自己肯定感を高める指導に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒の割合は78.2%であった。今後も、生徒会活動等を中心として教育活動全体を通して、生徒の主体的な活動の場を設定し、活動を充実させ、達成感・充実感をもたせたい。	A	・様々な学校活動の中で生徒の自己肯定感を高める指導に取り組んでいる」と肯定的に答えた教員の割合は100%であり、共通実践できたと見える。 ・「誰かの役に立っている」と肯定的に答える生徒の割合も82%であり、達成感・充実感をもたせることができた。	A	・生徒の自己肯定感が昨年より0.3ポイントも上昇し成果が出ていると判断できる。 ・生徒の自己肯定感の高まりが見られたようで、大変よかったと思う。 ・自信がもてない子が多し中、北中生は自信をもてる生徒が多いことはすばらしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「先生たちは、いじめの防止のために指導をしている」と肯定的に回答した生徒の割合を90%以上、保護者を90%以上 ○「機会を設けてあなたと話したり、話を聞いたりしている」と肯定的に回答した生徒の割合を90%以上	・月1回の生活アンケートの実施及び年2回のいじめ調査の実施 ・年2回のQ-Uアンケートによる生徒の実態把握 ・教育相談週間の設定及び実施	B	・先生たちは、いじめの防止のために指導をしている」と肯定的に回答した生徒の割合92.2%、保護者89.9%であった。 ・「将来の夢や目標を掲げている」と肯定的に回答した生徒の割合77.3%であった。今年度は教育相談員や職場体験等を実施し、生徒が自分の進路について考える機会を設け、さらにキャリアパスポートを活用するなど自己の進路と向き合う時間を多く設定する。	A	・92.4%の生徒と91.4%の保護者が「先生たちは、いじめの防止や早期発見、解決に取り組んでいる」と回答し、職員が様々な事案に組織的かつ迅速に対応するなどいじめ防止に向けた取り組みの充実が図られたと考えられる。 ・97.2%の生徒と96.3%の保護者が「先生たちは、話を聞く機会を設けたり、話を聞いたりしている」と回答し、日々生徒理解に努める職員の姿勢が伝わっていると考えられる。	A	・いじめや生活のアンケートを作成して生徒に書いてもらうことは大事なことでありと思う。 ・いじめが不登校の原因かどうかわからないが、不登校の数が多いため気になる。 ・学校と子供と家庭との間で、なんでも話せる環境づくりが大切と思う。
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的に回答した生徒の割合90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した生徒の割合90%以上	・教育相談等を通して個の理解に努める。 ・学校行事や生徒が活躍できる場を、その取り組み内容について称賛する。 ・総合学習やキャリア教育を通して、自己の生き方を考えることができるようにする。	B	・先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的に回答した生徒の割合が90%を超えており、今後も学校行事や教育相談等を通して生徒理解に努めていく。 ・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した生徒の割合77.3%であった。今年度は教育相談員や職場体験等を実施し、生徒が自分の進路について考える機会を設け、さらにキャリアパスポートを活用するなど自己の進路と向き合う時間を多く設定する。	B	・先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的に回答した生徒の割合は前回調査に引き続き90%を超えている。 ・「授業や学校行事、高校説明会などを通して自分の将来を考えることができた」と肯定的に回答した生徒は80%を超え、行事や体験活動が自分の将来について考える機会となっていることが分かる。	B	・コロナ禍でできていなかった総合的な学習活動や、行事等が再開されて、充実した活動ができたと思う。
●健康・体づくり 重点③	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○「心と健康のバランスを保つために、適度な運動、バランスの取れた食事、睡眠を意識している」と肯定的に回答した生徒の割合を80%以上	・心とからだのアンケートの実施 ・保健だよりの発行 ・生活部の活動の充実 ・栄養教諭と連携した食育指導	B	・「健康に良い食事をしていると思う」と肯定的に回答した生徒の割合は83%、「心と健康のバランスを…意識している」と肯定的に回答した生徒の割合は82%であった。 ・引き続き、アンケート等による実態を踏まえた保健指導を行い、保健だよりによる啓発にも努めていく。	B	・「健康に良い食事をしていると思う」と肯定的に回答した生徒の割合は85%、「心と健康のバランスを…意識している」と肯定的に回答した生徒の割合は75%であり、1学期から肯定的に回答する割合が10%低下した。 ・毎月の保健だよりの発行や保健室前の掲示物提示により、定期的な健康に関する情報を発信した。 ・給食部による残菜チェックを実施した。	B	・学校でのきちっとした食生活ができれば、いい食習慣につながって行くと思う。
	○防災教育の充実	○「自分の身を自分で守るためには、自分自身が学ぶことが大切だ」と肯定的に回答した生徒の割合を90%以上	・交通安全教室(4月)の実施 ・避難訓練(災害時の引き渡し)(6月)、地震・火災(11月)、不審者(12月)の実施 ・校内研修の実施(年間3回) ・防災教育の実施(総合的な学習の時間等)	B	・「自分の身を自分で守るためには、自分自身が学ぶことが大切だ」と思う」と約97.7%の生徒が肯定的に回答し、防災への意識向上が図られている。 ・6月に引き渡し訓練を実施し、保護者にも緊急時の引き渡し対応手順を確認した。生徒は9月にほうさい集会を実施し防災に対する行動を振り返った。	B	・98.6%の生徒と全ての保護者が、「自分の身を自分で守るためには、自分自身が学ぶことが大切だ」と肯定的に回答し、防災や減災への意識が高い。また、全ての職員が「機会をとらえて防災や減災について指導を行い生徒の意識向上に取り組んでいる」と肯定的に回答している。	A	・生徒、保護者の100%近くが防災教育を自ら学ぶことに肯定的な意識も高いことから、評価できる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進 重点⑤	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・タイムレコーダーを活用し、職員の時間外勤務状況を把握して適切な指導を行う。 ・移務や再編付を大切に、お互いが見守りあう組織づくりを行う。	B	・前期は、部活動終了時刻が遅いことから、時間外勤務が長くなりがちであった。 ・引き続き、必要に応じ年休を取りやすい雰囲気及び、職員の体調不安や悩みなどの相談しやすい雰囲気づくりや業務効率化に努めていく。	B	・96%の保護者が、学校の「働き方改革」を肯定的にとらえている。また、時間外労働の削減や休取取得の推進に取り組んでいると回答した職員は81%で昨年より改善している。今年度の時間外労働時間は、昨年比が全体で昨年比+約6%となっており、多忙化する学校の現状は改善されつつある。	B	・まだまだ業務量が多すぎるので、引き続き時間外在校の削減に取り組んでほしい。 ・時間外勤務の削減等に職員皆で取り組まれているので評価できるが、業務量も多く、まだ改善の余地がある。更なる推進で負担軽減ができればと思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○教職員の資質向上 重点①	○ICTを活用した授業実践の推進	○ICT機器を利用した授業により取り組み、理解が深まった」と肯定的に回答した生徒の割合を90%以上、保護者を80%以上	・タブレットに付属しているアプリや学習用ソフトなどの活用に関する研修会の実施 ・ICTを活用した研究授業の実施	A	・授業で電子黒板やタブレットなどの使用で理解が深まった」と肯定的に回答した生徒の割合は94.6%であった。これからも積極的に利用し、理解が深まるような指導を行っていく。	B	・授業で、電子黒板やタブレットなどのICT機器を利用したことによって、授業の理解が深まった」と肯定的に回答した生徒の割合が93.5%であった。中間時と同様に9割以上の生徒がICT機器の利用によって理解を深めていた。	B	・ICT機器の有効活用に向け、提案をおねがいしたい。
◎志を高める教育 重点④	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育の推進	○基礎的・汎用的能力についてのアンケート調査の各項目で、肯定的に回答した生徒の割合を80%以上。	・キャリア教育の視点から見直した授業の展開を図る。	B	・「授業や学校行事、高校説明会などを通して自分の将来のことを考えることができた。」と肯定的に回答した生徒は前年度より8.6%上がった。今年度は、1年生「農業体験学習」、2年生「職場体験学習」、3年生修学旅行をする中で基礎的・汎用的能力も身につけてきた感がある。 ・「キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を計画的に行っている。」と肯定的に回答した教師の割合は66.6%であった。教育活動全体を通して進めていく必要がある。	A	・基礎的・汎用的能力についてのアンケート調査で、「力がついた」と肯定的に回答した生徒の割合は、4月当初は73.2%であったが、12月末は83.1%と9.9%上がった。 ・「キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を計画的に行っている。」と肯定的に回答した教師の割合は75%であった。	A	・達成できる目標から段々より高い目標を設定し取り組み、成長ややりがいを感じられるのではないだろうか。
○地域社会と連携・融和したコミュニティスクールの推進 重点③	○保護者や地域住民と連携したコミュニティスクールの充実	○「地区や町(市)の行事に積極的に参加している」と回答した生徒の割合を80%以上 ○「学校は情報を積極的に保護者や地域によく発信している」と回答した保護者の割合を80%以上	・小中合同の学校運営協議会の実施 ・地域行事に関する周知徹底と参加促進 ・学校、学級通信等の発行、学校HPのこまめな更新、学校伝言板(お知らせメール)の活用 ・PTA広報紙の地域への配布	B	・今年度より主要な地区行事が再開され、「地区や町(市)の行事に積極的に参加している」と肯定的に回答した生徒は、77.4%であった。今後も地域を大切に心を育み、何ができるかを考え実践していく力を通して、総合的な学習等を中心として教育活動全体を通して取り組んでいく。 ・「学校は情報を積極的に保護者や地域によく発信している」と肯定的に回答した保護者は78%であった。今後も「地域に開かれた学校」に向けて、適切に情報を発信していく。	B	・地域行事や職場体験、農業体験が再開されて、約81.3%の職員が地域とのつながりに関する指導を行ったりしたことにより、地域行事に参加している回答している生徒は76%、保護者は72%であった。 ・学校運営協議会で、地域の課題や思いを共有するとともに、どのような子どもを育てていくかについて話し合うことができた。 ・定期的に月行事予定や学校だよりなど学校HPを更新した。学校からの情報発信を肯定的に回答した保護者は88%であった。	B	・職場体験や農業体験に取り組むことは大事だと思う。 ・地域と連携した行事や活動に参加することで、自らも地域の一員であるという意識と、愛着形成がされるよう連携強化をお願いしたい。 ・地域行事にはできるだけ参加させたい。 ・小中合同で学校運営協議会が行われているので、もっと小中の連携があってもいいのではないかと。
○特別支援教育の推進 重点⑤	○配慮を要する生徒に対する支援の充実	○「配慮を要する生徒に関する情報共有や研修を行い、支援の充実に取り組んだ」と回答した職員の割合を90%以上	・特別支援教育に関する研修の実施 ・生徒理解に関する研修の実施 ・SSW、SC、医療機関等関係機関との連携促進 ・特別支援学校巡回相談の活用	B	・全職員が特別支援に関する専門性が向上したと肯定的に回答した。 ・今後も巡回相談や専門機関との連携等により個別の支援の充実にも努める。	B	・「配慮を要する生徒に関する情報共有や研修を行い、支援の充実に取り組んだ」と回答した職員の割合は87.6%であり概ねよくできた。 ・特別支援学級連絡会、特別支援学級担任研修会等を開き、専門性を高めた。	B	・個々に合わせた支援は本当に大変である。専門機関、家庭との連携を図りいい環境を作ってほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、従来の学校行事を改善しつつ再開させることができ、様々な活動の中で自己肯定感や自己有用感を高めることができたことと判断できる。次年度はさらに、行事や活動を意図的に仕組み、目的を共通理解して豊かな心を育みたい。</li> <li>・配慮を要する生徒の指導が多様化し、専門的知識の取得や連携の強化の必要性がある。次年度は、客観的な実態把握に基づいたより細やかな支援にチームで取り組んでいく。</li> <li>・引き続き学力の向上が課題である。家庭学習の充実を図ることの効果は実感しているため、次年度は工夫して「810大作戦」や「前進ノートA」の取り組みを継続徹底していく。</li> </ul>
----------------	---